

国連大学協力会 2007 年度事業計画

【基本方針】

07 年度における国連大学の諸活動は、昨年に引き続き、国連が主唱する“持続可能な環境・開発による持続可能な社会の実現”を目指した研究・研修活動を重視していること、及び“持続可能な教育”について重点をおいていること等を尊重している。07 年度における国連大学協力会の事業計画は、国連大学のそれらの活動を資金的に援助するための計画的な取り組み、およびそれらの国連大学の活動に対し我が国国民の関心を高め、支持を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開し、本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針とする。

【事業計画】

寄附金募集活動

1. 「国連大学“サステナビリティプログラム”支援募金」活動（新規事業）

06 年度秋に策定した「国連大学“サステナビリティプログラム”支援募金」（以下、「サステナ募金」という。）を強力に推進する。サステナ募金は、国連大学が推進する、“持続可能な環境・開発による、持続可能な社会の実現”に資する研究及び研修活動を支援するための計画的募金活動である。サステナ募金は 5 ヶ年計画で 3 億円を目標としているが、07 年度は本格始動の初年度にあたるため、目標額を 4200 万円とする。

なお、06 年度「一般寄附」で 07 年度も継続寄附予定のある支援プロジェクトのうち、サステナ募金と趣旨を同じくする寄附金については、サステナ募金に統合する。

目標額 42,000,000 円

2. 一般寄附金

「一般寄附」は、広く国民から、随時に受け入れる寄附金である。サステナ募金の指定のない寄附金は、「一般寄附」として取り扱う。

目標額 1,000,000 円

（参考 06 年度実績見込み 個人 7 名、企業 19 社 26,000,000 円）

3. 賛助会費

国連大学の活動を継続的・安定的に支援するために、「賛助会費」による寄附金募集は極めて重要であるので、賛助会費による募金活動を積極的に行う。01 年度より実施してきた「個人会員」に加え、06 年度より開始した「法人会員」の勧奨を推進する。なお、個人会員については、継続会員の増加策を検討する。

目標額 1,500,000 円

（参考 06 年度会員数見込み：個人会員：165 名、法人会員：1 社 1,200,000 円）

4. 「遺贈制度」の積極的活用促進

「遺贈」など、賛助会費及び一般寄附以外の新たな寄附金受け入れ制度の導入について積極的に勧奨する。

5. 広く国民から寄附金を募集するための方法の開発

国連大学の活動が世界の平和構築に不可欠なことについて広く国民の理解を得て、幅広い国民各層が、少額でも気軽に寄附が出来るような体制について検討・導入する。たとえば、インターネットによるホームページからの直接的な手続きによる寄附金募集の具体的方法などを開発・導入する。

国連大学への助成活動

国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との十分な連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、国連大学協力会の「国連大学協力会助成・寄附諮問委員会」の十分な審議を経て行うこととする。助成対象の検討に際しては、サステナ募金の趣旨が十分生かされるよう、配慮する。

助成予定額 計 39,000,000 円

1. 国連大学の研究活動に対する助成

06 年度において国連大学が重視している“持続可能な環境・開発・平和”に関する研究活動に対し重点的に助成する。

(1) 環境と開発分野

アジア水圏における環境監視と管理プログラム（継続助成）

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究である。ダイオキシンや PCB などの残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境監理を目指す事業。

（参考 06 年度実績見込み 16,640,000 円）

ゼロ・エミッションフォーラム（継続助成）

環境の質の保全と持続可能な開発を同時に達成するためにこれまでの生産のあり方と消費形態のあり方を見直し、資源利用の最適化及び廃棄物の最小化を促進するための技術開発と市民活動の展開を促す研究・実行プロジェクトである。そのため、幅広い産業界と市民層を巻き込んだ、廃棄物相互利用による資源の最大活用への絶え間ない進歩と、廃棄物の排出削減との両立を目指す事業。

（参考 06 年度実績見込み 1,950,000 円）

その他、国連大学との協議により必要とされる新規事業

(2) 平和とガバナンス分野

永井道雄記念講演会(継続助成)

本財団の創設者であり、国連大学の活動の推進に尽力した永井道雄氏を記念し、国連大学の役割と貢献などについて、毎年、今日的な問題に照らして検討を行う講演会。

(参考 06年度実績見込み 200,000円)

その他、国連大学との協議により必要とされる新規事業

2. 国連大学の研修活動などに対する助成

国連大学グローバル・セミナー(継続助成)

国連大学が行っている研修活動の内、国内7地域及び韓国・ハワイなどで開催されるグローバル・セミナーは、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。このセミナーは、日本の若者も多く参加することから、本財団としても従前より強力に支援してきた。本年は、そのうち支援を必要とする地域のセミナーに対して支援する。

(参考 06年度実績見込み 3,660,000円)

鳥瞰的環境学サマー・スクール(継続助成)

国連大学の主要テーマである環境問題に関し、主として大学院博士課程レベルを対象とした環境学・環境問題に関する専門研究者・実践専門家の養成を図る事業である。環境問題の今日性及び専門家養成の重要性に鑑み継続的な支援をする。

(参考 06年度実績見込み 1,950,000円)

国連大学高等研究所(IAS)の研究・研修活動(継続助成)

国連大学が世界13カ国14地域に設置している研究・研修センターのうち日本におかれた研究・研修センターである「高等研究所」(IAS)(東京・横浜)に対し、その活動が円滑に推進できるよう支援する。IASの活動については、06年度より開始したが、日本におかれた研究・研修センターであることの重要性に鑑み、支援を強化する。07年度においては助成対象事業の拡大を図る。

開発途上国にある国連大学研究・研修センターへの支援

国連大学が世界13カ国14地域に設置している研究・研修センター・プログラム(RCP)のうち開発途上国に設置されているRCPの活動を支援することの重要性に鑑み、次の3RCPへの支援を行う。

IGH-・・・グローバル保健国際研究所（マレーシア・クアラルンプール）
“伝染病と保健“の研究・研修

INRA-・・・アフリカ天然資源研究所（ガーナ・アクラ）
“アフリカにおける天然資源の保全”の研究・研修

BIOLAC-・・・中南米バイオ技術プログラム（ベネズエラ・カラカス）
“中南米諸国におけるバイオ技術普及”の研究・研修

その他、国連大学との協議により必要とされる新規事業

3. 国連大学の施設・整備に関する助成

国連大学本部の施設維持特別助成（継続）

国連大学本部の施設維持について引き続き支援する。

（参考 06年度実績見込み 5,000,000円）

国連大学図書館図書購入費（継続助成）

国連大学図書館の蔵書の充実に資するため、継続して支援する。

（参考 06年度実績見込み 50,000円）

その他、国連大学との協議により必要とされる事項

国連大学からの委託事業

国連大学研修事業における諸費用の徴収事務（継続事務）

国連大学が実施する事業の業務遂行の合理化を図る観点から、研修事業において、主として日本人参加者からの諸費用徴収にかかる事務について、国連大学からの委託を受託する。

その他、国連大学との協議により必要とされる事務

国連大学への国民の関心を高め、支持を強化するための事業

国連大学の活動が世界の平和構築、持続可能な地球の実現に不可欠な活動であることについて広く国民の理解を得、幅広い国民各層が、国連大学の活動に高い関心を寄せ、強力な支持が得られるよう、広報普及活動をより一層強力に推進する。

(1) 広報分野

各種、広報用パンフレットの作成について、より国民に親しみがもたれるよう、既存発行資料の編集方針・編集内容の改善、及び新たな資料の検討を行う。また、本法人への寄附者及び広く国民に本法人の活動実績を知らせ、公

益法人としてのアカウンタビリティを果たす。

- ・ 国連大学協力会の案内書の発行
- ・ 国連大学協力会便りの発行
- ・ 国連大学協力会活動報告の発行 その他

国連大学協力会「ホームページ」の充実

06年度において、国連大学協力会がインターネット上に展開する「ホームページ」について、抜本的な検討を加え、全面リニューアルを図った。07年度は、このホームページの利用状況を分析し、国民の幅広い層が国連大学及び国連大学協力会の情報に関心をもって接することができるよう、コンテンツを充実させる。コンテンツを充実させ、また、「ホームページ」を介して、本法人への寄附行為、本法人及び国連大学の主催事業への参加など、国民が直接的に本法人の活動にかかわれるような方法を導入する。

(2) 講演会等分野

気軽な講演会等の開催（新規）

幅広い国民や企業関係者などの国連大学及び国連大学協力会への関心と支持を高めるため、国連大学の活動と人々の生活、企業活動との関連など、身近な問題から国連大学の活動の重要性を認識してもらえよう、人々が気軽に参加できる講演会などを検討する。

(3) 調査・研修など分野

グローバル・セミナー同窓会の充実

本法人は、国連大学主催のグローバル・セミナーの修了生を対象に1999年度より“グローバル・セミナー同窓会”を開催してきた。また、06年度より開始した“jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム”では、国連大学研修コース修了生を対象としている。これらの実績から、国連大学研修コースの修了生たちが、研修修了後も、継続的に相互に情報交換をし、それぞれの活動に関する知識や情報を共有するための場の提供がきわめて重要であることが判明した。そのため、07年度は主としてグローバル・セミナー修了生を対象に、国連大学研修コース修了生の同窓会機能の充実を図る。

jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウムの開催

06年度に初めての試みとして「jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム」を実施した。これは国連大学との共催による2日間にわたるシンポジウムであるが、国連大学が実施する多様な研修コースの修了生たちについて、その後の活動状況を把握し、修了生たちが相互に情報交換と課題の検討を行い、それぞれの今後の活動に資する上で効果を有している。そのため、07年度においても継続して実施することとし、実施に際しては、今年度の実施状況を分析し、必要な改善を取り入れる。

本法人の管理運営に関する事項

2008年（平成20年）に予定されている新公益法人法の施行に伴う課題について、具体的準備を開始する。

以 上